

ジョイフル

VOL.21
2020.11.10 発行



浜松営業所 構内作業員 **小林 正信**

2011年、南星キャリアックス株式会社へ入社した小林正信さん。浜松営業所に所属し、構内作業員として段ボール製品の運搬業務に携わっています。小林さんに、仕事に対する思いと今後の目標について聞きました。

**現在の仕事内容について
お聞かせください。**

株式会社トーモク浜松工場にて製造される段ボール製品を、出荷内容に応じてピックアップし、倉庫に運んでいます。製品の種類は多岐にわたり、加工後20〜30個が1束に結束されたものが機械でパレットに積まれます。それらを振り分け、出荷前の仮置き場に運ぶまでが私の仕事です。朝から17時頃までを担当し、その後は夜勤の人と交代しています。

仕事をする上でどんなことを心がけていますか。

時間帯によって、出荷される製品

はさまざまです。倉庫の中は区分されており、出荷する人が困らないように、分かりやすく整理された状態であることを常に意識しています。そして、夜勤との交代時には置き場所の確認など申し送りの伝達を確実に、各持ち場に負担をかけないよう、情報共有に努めています。

製品を傷つけないことや、倒さないことも大切です。リフト操作を誤り、段ボールに傷がついたり角が潰れたりすると不良品となり、弁償になってしまいます。

リフトの運転には高度な技術が求められますね。

製品不良を出すとお客様にも、トーモク様にも迷惑がかかるので、運転は慎重にしなければなりません。

高校卒業後、就職してからはリフトに乗る仕事に携わってきました。前職では10年以上、3.5トンクラスのリフトに乗っていた経験があります。とはいえ、大きいリフトに乗っ

ていたから、今の1.5トンクラスが楽というわけではなく、最初の頃は失敗してしまうこともありました。常に緊張感を持って作業に臨んでいます。

これまで印象に残っている出来事がありますか。

今から5年ほど前、成形前のシート状の段ボールを扱う工程を担当していた時のことです。パレットを機械の中に入れようとしたら、誤って2メートルくらいの高さからパレットを落としてしまいました。間が悪いくことに、ちょうど下にあったスイッチのボックスに当たって壊してしまつたのです。パレットは1つの高さが約17メートルで重量感があります。もしそこに人がいたら、大惨事になるところでした。

その時、どんな気持ちになりましたか。

「人がいなくて良かった」という安

堵の後に、「とんでもないことをしてしまった」という罪悪感が押し寄せました。すぐに上司に報告し、壊れたのはトーモク様所有の機械だったので、そちらにも速やかに報告しました。その後は、慎重に作業しようという気持ちがより一層強くなりました。

失敗した時は、どのように乗り越えてきましたか。

人間関係や仕事関係など、これまでに辞めたくなることは何度かありましたが、上司に相談したり愚痴を聞いてもらったりして、何とか踏みとどまりました。

そして、妻の励ましがあつたので、今までやってこられたと思います。「今辞めても行くところはないよ」「頑張つて」などの言葉をかけてもらう度、「家族を守るため、自分が頑張らないと」という気持ちにさせてくれました。上司や家庭の支えがあつたからこそ、働き続けることができます。

最後に、今後の目標を教えてください。

このインタビュウの件は、上司である係長の犀川さんが推薦してくれました。それだけ私を気にかけてくださっているのかと、大変嬉しく思いました。

今後の目標は、平常心で作業を行い、初心の気持ちを忘れず、安全第一で業務を遂行することです。仲間うちでも「互いに注意し合おう」と

話をしています。慣れた時に、事故は起こるもの。どんなに忙しくても、作業の1つひとつを疎かにしないことが大切です。

これからも丁寧な仕事を心がけ、会社に貢献していきたいと思っています。

